

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	: フッ素樹脂コーティングガラス濾紙 PG-60
供給者の会社名称, 住所及び電話番号	
会社名称	: 東洋濾紙株式会社
住所	: 東京都千代田区内幸町2-2-3 日比谷国際ビル5階
担当部門	: 品質保証室
電話番号	: 03-5521-2176
FAX番号	: 03-5521-2177
メールアドレス	: trk-hinsho@advantec.co.jp
推奨用途	: 大気粉塵濃度測定、浮遊粒子状物質の濃度測定、組成分析
使用上の制限	: ・上記以外の用途にご使用される場合は、事前にご相談ください。 ・エアサンプラー用濾材として、撥水性を有していますので、液体の濾過の際にはご留意ください。

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類	
物理化学的危険性	: 区分に該当しない。
健康有害性	
皮膚腐食性/刺激性	: 区分2 (刺激性)。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 区分2 B (軽度の眼刺激性)。
発がん性	: 区分2。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: 区分3 (気道刺激性)。
環境有害性	: 区分に該当しない。
GHSラベル要素	
絵表示又はシンボル	: 
注意喚起語	: 警告。
危険有害性情報	: 皮膚刺激。 眼刺激。 発がんのおそれの疑い。 呼吸器への刺激のおそれ(気道刺激性)。
注意書き	
安全対策	: 取扱後は手をよく洗うこと。 使用時には必要に応じて保護手袋を着用すること。 粉塵の吸入を避けること。
応急措置	: 吸入した場合、呼吸が困難な場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢

で休息させること。呼吸に関する症状が出た場合には、医師に連絡すること。
皮膚についた場合、多量の水と石鹼で洗うこと。

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

皮膚の刺激や眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。

- 保管 : 容器に入れて保管すること。
廃棄 : 都道府県知事が許可した産業廃棄物処理業者もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、その団体に委託して処理すること。

3. 組成及び成分情報

- 化学物質・混合物の区別 : 混合物
化学名又は一般名 : ガラス濾紙
成分及び濃度又は濃度範囲 : ガラス繊維 約70%
ポリテトラフルオロエチレン
(CAS No.9002-84-0)
官報公示整理番号
化審法 : (6)-939 ポリテトラフルオロエチレン
安衛法 : 別表第9の314 人造鉱物繊維
(ガラス繊維)

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 熱分解により発生するガスの吸引は、一時的にインフルエンザに似た症状を示す。症状は頭痛、関節の痛み、一般的不快感、発熱、咳、悪寒、心悸亢進および胸部不快感を生じる。異常がある場合は、医師の診察を受ける。
皮膚に付着した場合 : 該当しない。
眼に入った場合 : 直ちに清浄な流水で十分に洗眼する。異常がある場合は、医師の診察を受ける。
飲み込んだ場合 : 異常がある場合は、医師の診察を受ける。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 水（噴霧）、粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素消火剤、ハロゲン化消火剤など。
使ってはならない消火剤 : データなし。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項, 保護具及び緊急時措置 : データなし。

環境に対する注意事項	：	データなし。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	：	データなし。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	：	埃を吸い込まないようにする。 眼、皮膚にできる限り触れないようにする。 必要に応じ、手袋、保護眼鏡、防塵マスクを着用する。 高温にさらされた場合は有毒ガスを発生する虞があるため、熱源への曝露、接触を避ける。
保管	：	変質を防止するため、直射日光、紫外線、水濡れ、高温、低温、高湿、屋外保管を避けると共に、強酸、強アルカリとの接触を避ける。 フッ酸との接触を避ける。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度	日本産業衛生学会	：	ガラス繊維は、1f/ml(暫定値)だが、濾紙としては設定されていない。
	ACGIH	：	ガラス繊維は、1f/cc [長さ5 μ m以上、アスペクト比(長さ/直径)3以上の吸入性繊維]だが、濾紙としては設定されていない。
設備対策		：	局所排気装置および洗顔、洗身、うがい、更衣設備などの設置が望ましい。 260℃以上に加熱される場合は、局所排気装置を設置する。
保護具		：	必要に応じて使用する。 260℃以上の加熱において、生じる分解ガス中に人体が暴露される場合は、エアークリーンマスクを使用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	：	固体、表面が平滑な紙。
色	：	白色。
臭い	：	なし。
融点/凝固点	：	データなし。
沸点又は初留点及び沸点範囲	：	データなし。
可燃性	：	なし。
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	：	該当しない。
引火点	：	該当しない。
自然発火点	：	該当しない。
分解温度	：	データなし。
pH	：	データなし。
動粘性率	：	該当しない。
溶解度	：	水に不溶。
n-オクタノール/水分分配係数	：	データなし。

蒸気圧	:	データなし。
密度又は相対密度	:	データなし。
相対ガス密度	:	該当しない。
粒子特性	:	データなし。

10. 安定性及び反応性

反応性	:	通常の取扱い条件では安定。 260℃以上で極めてゆっくりだが分解を始める。 400℃以上では分解速度が速くなる。 熱分解より生成が始まる可能性のある温度レベルと分解生成成分。 <table> <tr> <td>テトラフルオロエチレン</td> <td>≥430℃</td> </tr> <tr> <td>ヘキサフルオロプロピレン</td> <td>≥440℃</td> </tr> <tr> <td>パーフルオロイソブチレン</td> <td>≥475℃</td> </tr> <tr> <td>カルボニルフロライド</td> <td>≥500℃</td> </tr> </table>	テトラフルオロエチレン	≥430℃	ヘキサフルオロプロピレン	≥440℃	パーフルオロイソブチレン	≥475℃	カルボニルフロライド	≥500℃
テトラフルオロエチレン	≥430℃									
ヘキサフルオロプロピレン	≥440℃									
パーフルオロイソブチレン	≥475℃									
カルボニルフロライド	≥500℃									
化学的安定性	:	通常の取扱い条件では安定。								
危険有害反応可能性	:	データなし。								
避けるべき条件	:	強酸、強アルカリとの接触を避ける。 フッ酸との接触を避ける。								
混触危険物質	:	データなし。								
危険有害な分解生成物	:	テトラフルオロエチレン、ヘキサフルオロプロピレン、パーフルオロイソブチレン、カルボニルフロライドなど。								

11. 有害性情報

急性毒性		
経口	:	区分に該当しない。
経皮	:	区分に該当しない。
吸入：ガス	:	区分に該当しない。
吸入：蒸気	:	区分に該当しない。
吸入：粉塵、ミスト	:	データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性/刺激性	:	区分2 (刺激性)。 (成分として) 区分2 (刺激性)。(ガラス繊維)
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	:	区分2 B (軽度の眼刺激性)。 (成分として) 区分2 B (軽度の眼刺激性)。 (ガラス繊維)
呼吸器感作性又は皮膚感作性	:	データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性	:	データ不足のため分類できない。
発がん性	:	区分2。 (成分として) 区分2。 IARCグループ2 B (人にがんを引き起こす虞がある)に分類される。 (ガラス繊維)
生殖毒性	:	データ不足のため分類できない。

参考文献

- ・ GHSに基づく化学品の分類方法 (JIS Z 7252:2019)
 - ・ GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (SDS) (JIS Z 7253:2019)
-